

岸田総理は支持率回復のために 政策実行力をしっかりと発揮せよ

9月27日、安倍晋三元総理の国葬が日本武道館において行われました。

2万5000人の国民が弔問に訪れ、世界各国からも元首を始め700名もの要人たちが弔問に来日し、岸田総理は弔問外交として迎賓館で38カ国の首脳・要人と会談しましたが、これではあまりにも時間が短すぎます。

こんなことで成果を期待するような甘い考えは捨て、これから岸田総理がしっかりと政策を実施し、与党のみならず野党、そして国民から信頼を回復し、着実に前進していただきたいと思います。

9月19日に英国で荘厳に行われたエリザベス女王の国葬では、70年以上の長きに渡り、英国民のシンボルとして国家に尽くし、積み重ねてきた実績が背景にあり、まさに国葬に値するものだといえるでしょう。一方、岸田政権は、与野党への気配り、国民への説明責任を欠きました。

国葬の決定のみならず、世界平和統一家庭連合（旧統一教会）と政治家の関係、桜を見る会問題、そして森友・加計問題等に対する、明確で丁寧な説明が欠落していることが大幅な支持率低下の要因となっていることは明確です。こうしたことを岸田総理は深く反省し、信頼回復のために頑張ってくださいと思います。

新型コロナウイルス第8波への危惧とともに、これからの季節はインフルエンザが流行するのではないかという国民の恐怖もあります。支持率云々ではなく、国のリーダーとして慎重かつ早めの対策を打っていくことが今岸田総理には求められているのです。

軽々しく発言された次世代型原子力発電所の新設や既存原子炉の再稼働などについても、東日本大震災時の福島第一原子力発電所事故への対応と対策もまだ道半ばであり、国民には恐怖感が残っていることを忘れてはなりません。

ウクライナ紛争の際の発言や、コロナ禍の水際作戦で勝ち得た支持率を考えれば、議論を尽くし、それを明確に国民に開示することの大切さは明白です。

岸田総理が政策実行力をしっかりと発揮することを期待します。

本誌主幹 大中 吉一